

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	社会人対象コース		
事業名	専修学校を活用した就業能力向上支援事業		
法人名	学校法人 伊東学園		
学校名	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校		
代表者	伊東 政信	担当者 連絡先	総務部長 山田正彦 TEL 0721-24-5147
1. 事業の目的			
<p>園芸業界においては、最近の経済不況の影響もあって所得水準が一段と下がっており、若年層の定着率が低くなっている。一方、中高年に提示される就職機会が少ないことは恒常的な社会現象でもある。このような状態を打破すべく、中高年を対象に専門職業教育を与えることによって、特技を活かした有利な就職状況を構築する。</p> <p>本事業では、園芸業界の求める基礎知識、フラワーデザイン、造園施工管理技術の習得について、園芸基礎講座、フラワーデザイン技術習得講座、および造園技術・管理機運転技術習得講座を開講実施する。</p> <p>講座解説に当たり、受講生満足度70%を設定、また就職希望率50%を設定する。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>再就職に有効な技能習得ならびに各種資格取得のためのトレーニングを行う。具体的には、園芸系の就職機会拡大のために基礎学力・技術を高めるための講座を開設、本校主催の園芸基礎技術検定2・3級や、園芸業界において高い権威を持つ（社）日本家庭園芸普及協会主催による検定であるグリーンアドバイザーなどの受験に対応できる能力向上をめざす。また、フラワーデザイン系への就職の足がかりとして、講義と実習を通じて（社）日本フラワーデザイナー協会認定の技能検定受検のための必要単位数をサポートする。また、ガーデニング、造園系への対応として、造園基礎技術（剪定・施工）、特殊車両や刈払い機等の労働安全衛生法による特別教育の取得のための講義と実習を実施する。これらを通じて就職への有利性を確保することとする。実施にあたっては本校教員ならびに（社）フラワーソサイエティーや（財）大阪生花商業協同組合等実施協力機関からの講師の招聘を中心とする。また、対象者の進路相談・就職の斡旋等についても主として本校教職員が当たることとするが、事業実施団体をはじめとする園芸関係諸団体との連携、協力を得ることで、就職機会が高まるよう配慮する。</p> <p>■ 園芸基礎講座（全18回：総授業時間数90時間：7月25日～1月30日）</p> <p>◎第1回 7月25日（土） 園芸植物の施肥・培養土について</p> <p>園芸植物のジャンルは多岐に亘るため、施肥法、根圏管理のための培養土の組み立ても多様になる。特にコンテナや鉢栽培では一般の花壇や耕地と異なる管理が必要であることを実習を通じ理解する。</p>			

## ◎第2回 8月8日(土) 熱帯の植物とヒーリングガーデン

熱帯植物は温帯地域に位置する先進国が珍しい物を収集することからひとつのジャンルとして確立された。また花だけでなく、葉の美しさを利用することによって幅のあるガーデンを演出できること、ハンディキャップのある人や高齢者向けのいやしの空間、ヒーリングガーデンとしても利用について考える。

## ◎第3回 8月22日(土) 世界のランについて

ランは世界中に分布しており、熱帯性のバンダ、亜熱帯性のファレノプシスなどの他に、温帯性のシンビジウムなど、目的に応じて利用場面が広いことを実習で理解する。また東洋ランについても学ぶ。

## ◎第4回 8月29日(土) アトリウム見学

商業ビル内への本格的な植物栽培空間、アトリウムを設置した我が国での発祥地である。都会の中に緑のオアシスを演出する試みとして創られたアトリウムにて植物についての造詣を深める。

## ◎第5回 9月5日(土) 木本植物の栽培方法

日本の自然に適応した植物のうち、草本と木本を比較し、特徴的な栽培方法を指導する。また、実習を通じて花芽の付き方と剪定方法、病虫害防除と運動した形の整え方なども合わせて学ぶ。

## ◎第6回 9月12日(土) 家庭園芸と野菜栽培

市民生活に園芸を取り入れる場合、敷地内や貸し農園、またベランダでの栽培が考えられる。特に野菜栽培は園芸への導入植物として優れている点について実習を中心に学ぶ。

## ◎第7回 9月26日(土) 江戸・明治の文化と園芸

我が国の園芸文化が大きく開花したのは室町期以降で、日本庭園がこの時期に完成している。現代に引き継がれている植物、それを含めた催事などを中心に学ぶ。

## ◎第8回 10月12日(祝) 苔の園芸利用とその展望

我が国にはコケ類の自生が多く、意識的に集めればかなりの種類を収集することができる。栽培も条件が合えば容易である。寺院などの限られた空間だけでなく、グローバルな感性での利用が期待できる。芸術作品としてコケを利用したアート、現代装飾への利用例などの紹介を実習を通じて行う。

## ◎第9回 10月24日(土) 花の役割について

花はくらしの中で古くから利用されている。仏への献花の様式から生け花文化が生まれてたりもする。花の役割について幅広く考察、理解していく。

## ◎第10回 10月31日(土) 園芸植物の加工と利用

植物は食物だけでなく、色々な用途を持っている。カキからは食用のほかに柿渋が用いられてきた。現在、ハウスシック症候群の軽減のための室内塗布剤としての用途が注目されている。また、ハーブなど、他の植物でも様々な用途があることを学ぶ。

## ◎第11回 11月7日(土) ラン植物の栽培管理

前回に引き続き、種類別のラン科植物の栽培方法について実習を通して解説。コチョウランなどでは夏季に高冷地に上げて花芽分化を促進させる促成栽培が行われていることなどを学ぶ。

## ◎第12回 11月21日(土) 世界の庭園について

世界の庭園は大きく分けて、幾何学的整形のスペイン式やドイツ庭園、自然状態を重視するイギリス式庭園、過繁茂な自然から生まれた日本の造形庭園について学ぶ。日本の緑地庭園研究と植物実物鑑定。

## ◎第13回 11月28日(土) 発芽と播種方法

趣旨の発芽には水分と酸素が重要である。光については必要とするものと有害であるものがある。発芽時には環境が清潔でなければならない。また、養分を入れた寒天などの人工培地での発芽を学ぶ。

## ◎第14回 12月12日(土) 花の意匠の歴史

花はデフォルメされて模様のモチーフとして利用されてきた。また、豪族や王家の紋章として、団結の象徴にもなっている。著名なアイリス、ヨーロッパ原産のバラなどを中心に学ぶ。

## ◎第15回 1月9日(土) 伝統植物の可能性

江戸時代に大きな隆盛期を迎えた伝統植物は、武士階級や余力をもった市民がその担い手になった。新しい形態の育成を競い、そこから多様な品種が生まれた。伝統植物のこれからの可能性を考える。

## ◎第16回 1月16日(土) 植物の水・環境

世界の水事情のなかで、我が国は先進国のうち数少ない資源大国である。植生は水量、水質とも関連して生まれる。地被類が豊富なこともその環境の特徴である。植物・水・環境の関連について学ぶ。

## ◎第17回 1月23日(土) 花の造形とデザイン

花壇の設計を構成する要素として、まず花型の違いによる使い分けがある。また、配色によるデザインが有効で、色分け、グラデュエーション、それらの変形がある。また、全体の形の違いを組み合わせることによって立体的な演出も可能である。実習を交えて花の造形とデザインについて学ぶ。

## ◎第18回 1月30日(土) 生産園芸における企業の戦略

現代の生産園芸においては、競争社会のなかで切り抜いていくため、オリジナル商品によってブランドを確立することである。生産園芸の現在の状況と未来について考える。

### ■ フラワーデザイン技術習得講座(全8回:総授業時間数40時間:8月9日~11月8日)

#### ◎第1回 8月9日(日) フラワーデザインの基礎知識 と 実技:幾何学的形態(トライアングラー)

アレンジメントの種類、用具と資材の使い方、ファンデーションワーク(土台作り)、花材の形態とその使用区分、花材の取扱い方を学ぶ。アレンジメントの基礎である二等辺三角形のアウトラインの取り方、花の向き、配置、配分、比率を実技を通して習得する。

#### ◎第2回 8月23日(日) フラワーデザインの基礎テクニック と 実技:花束(丸い花束)

花束の束ねる方法、花材の下処理の仕方、植物素材の扱い方、水揚げ方法を学ぶ。茎は一方方向のスパイラル状に構成、植物素材の偏りがないように配置、グリーンとの配分と使用方法、プロポーションのとり方、結束の仕方、仕上げの方法を実技を通して習得する。

#### ◎第3回 9月6日(日) フラワーデザインの基礎テクニック と 実技:ラウンドブーケ

ブーケの種類、ワイリングの方法、テピン法、リボワーク、ブーケのハンドル処理の仕方、角度のつけ方を学ぶ。花材ごとのワイヤーの種類とワイヤーリングの仕方、フォーカルポイントの角度のとり方、組み立て方、花の向きを実技を通して習得する。

#### ◎第4回 9月20日(日) フラワーデザインの構成原理 と 実技:植生的

作品を作り上げる時の構成原理として、造形のイメージ、制作のテーマからの考え方を学ぶ。基本の3つのグループ分けによる配置、配分を学ぶ。植生感のあるグループ分け、ベース構成の仕方、生長のリズムに合った段付けを実技を通して習得する。

#### ◎第5回 9月27日(日) フラワーデザインの造形要素 と 実技:共同形態

フラワーデザインの造形を形成する要素として、形体、形態、テクスチャー、色彩のそれぞれについて分析し、それらがもたらす効果を理解する。わずかな主張の植物を群生させる表現方法を学ぶ。

#### ◎第6回 10月11日(日) フラワーデザインの造形の秩序 と 実技:並行-植生的・並行-装飾的

造形要素が互いにかかわりを持って一つのまとまった作品になるという造形の秩序のついて、具体的にハーモニー、コントラスト、バラエティー、そしてユニティについて学ぶ。並行配置による植生感の表現方法と装飾感の表現方法を実技を通して習得する。

#### ◎第7回 10月25日(日) フラワーデザインの造形の秩序 と 実技:構造的

造形要素が互いにかかわりを持って一つのまとまった作品になるという造形の秩序のついて、具体的にハーモニー、コントラスト、バラエティー、そしてユニティについて学ぶ。植物の材質感によって表面構造を表現し、配置、配列、面積の大小・長短の違いで変化を習得する。

#### ◎第8回 11月8日(日) フラワーデザインの構成理論 と 実技:装飾的花嫁の花束

総合的に、プロポーションのとり方、安定感のあるバランスのとり方、花材の組み合わせ方と共に、ブーケホルダーの使い方、吸水の仕方、花止めの仕方を学ぶ。ブーケホルダーを用いて円錐形に構成する花束のテクニックを習得する。

### ■ 造園技術・管理機運転技術習得講座(全10回:総授業時間数40時間:9月6日~2月20日)

#### ◎第1回 9月6日(日) 樹木の医学

樹形や大きさ、成長速度の異なる樹木の配置の方法と、光合成や病虫害防除を考えた整枝方法の説明。根域を確保するための土壌のメンテナンス法、施肥法。農薬を用いない病虫害の総合的防除。市街化地域における農薬散布にあたって、飛散を回避するための方法、適正な防除方法などを解説した。

#### ◎第2回 9月13日(日) 樹木管理と剪定①

樹木管理と剪定。剪定・刈り込み実習。特に垣根の刈り込みの実習。樹種の違いによる刈り込み時期の違いの解説を中心として実施した。刈り払い機安全教育のための指導を実施する。

#### ◎第3回 9月27日(日) 植物と庭園史

我が国の庭園が明らかな特徴を持ち出すのは平安朝期の神殿作りの館。室町期に入って、現代に続く日本庭園が完成期に入る。庭園は貴族、寺社仏閣、富裕層の住まいに付随したもの。海外でも庭園は同じような経過をたどり、元々市民の空間とは無縁。明治期に西洋文化が輸入された時に和洋折衷庭園ができた。また、植物園という発想がヨーロッパよりもたらされたことなどを学ぶ。

#### ◎第4回 10月17日(土) 樹木管理と剪定②

樹木管理と剪定。剪定・刈り込み実習の2回目。特に高木の整形。病害の侵入を防ぐための枝の切り方。マツの成型方法などを学ぶ。小型車両系建設機械安全教育のための指導を実施する。

### ◎第5回 11月22日(日) 緑地庭園見学実習

世界の庭園に使われる石組み。記念公園内の世界の庭園コーナーで、それぞれの地域における庭園の特徴、特に石の使い方について見学を実施する。ヨーロッパは石の文化とも言われ、庭園構成にも石は多様されている。ただし、整形された石組が中心。自然石ではアイルランドの薄い石版を積み重ねた壁が特徴的。東アジアではよく似た使われ方をされており、防塁、敷石などは堅固な整形石が使われる。我が国では、それに加えて自然石をいかに配置して自然を象徴化するか、という独自の分野を切り開いた。

### ◎第6回 12月5日(土) 造園技能講習

造園技能講習ならびに剪定・刈り込み実習を行う。特にマツの剪定。安全対策としてはしご、縄、用具の使い方及びロープワークの実習についても学ぶ。

### ◎第7回 1月17日(日) 環境論

我が国は山地が多く、また水に恵まれた国土を持つが、人間の介在によって山林の舗どんどは管理されている。里山はその最たるもので、人と自然の共生の場でもある。一方、神社の境内は、その宗教性もあって、自然植生が最も保存されている場所でもある。実習と合わせて環境について考える。

### ◎第8回 1月24日(日) ガーデンデザイン

景観形成と樹木類についてガーデンデザイン実習を通じて学ぶ。樹形、針葉樹と広葉樹、常緑樹と落葉樹、紅葉するもの、花を觀賞する木、それに下草としての草本類、さらに石や流水、壁、借景などが配置されて庭園は完成される。公共緑地でも基本的な考え方は変わらない。都市の再生、地域に根ざした景観の再構築が基本になる。

### ◎第9回 1月31日(日) 造園の仕事と今後の展望

現在の経済不況を差しい引いても、造園業界は体質的に脆弱になっている。これはあまりにも多く公共事業に依存してきた結果である。民間需要を喚起するための装置、プロモーションを強化しなければならない。また都市の環境生態をも考慮した植栽ノウハウの蓄積と実行が再生へとつながるなどを考察する。。

### ◎第10回 2月20日(土) エクステリア技能講習

エクステリア技能実習として、住まいに付属したグリーン空間の演出のための実習を中心とする。配置、垣根の作り方、煉瓦の積み方、ブロック積等を実施した。

## ②受講者の募集方法 (手法・期間・効果)

受講者募集にあたっては、主に下記の方法を用いて行った。

1. 新聞広告として開講案内折り込みチラシを7月1日に実施
2. 書店への開講案内チラシ設置を7月1日から7月10日まで実施
3. 大阪生花商業組合・フラワーソサイエティの協力のもと園芸生花店舗にチラシを7月1日から7月24日まで掲出

応募状況については、受講料等が不要のこともあり園芸基礎講座の定員30名に対して33名の応募があり、フラワーデザイン技術習得講座の定員20名に対して24名の応募、造園技術・管理機運転技術習得講座の定員20名に対して20名の応募という結果となった。

募集方法の効果としては新聞折り込みをもとに申し込みのあった受講生が4名いたが、それ以外の受講生は広告の開示期間が長かったこともあるが、園芸関係各所の働きかけによるものであり、結果的に費用等の発生しない書店へのチラシ設置では応募まで結びつかなかった結果となり、今後の課題となった。

## ③受講者の状況

### 園芸基礎講座受講生状況

受講者 33人 の内訳は以下の通りである。

男性 5人 、女性 28人

年齢層は、20代3人、30代2人、40代8人、50代8人、60代12人

受講開始時には8人の方が定職もしくはパート・アルバイトにて生活、それ以外の受講

生は仕事をしておらず、今回の受講をきっかけとして就職に結びつけばと考えていた。また、受講者の半数以上が比較的若い年代のころから園芸には興味を抱いていた。

#### フラワーデザイン技術習得講座受講生状況

受講者 24人 の内訳は以下の通りである。

男性 3人 、女性 21人

年齢層は、40代12人、50代10人、60代2人

受講開始時には6人の方が定職もしくはパート・アルバイトにて生活、それ以外の受講生は仕事をしておらず、今回の受講をきっかけとして就職に結びつけばと考えていた。

また、園芸の講座とは違い、受講者の半数以上が比較的高い年代（40代以降）になってからフラワーに興味を抱いていた。

#### 造園技術・管理機運転技術習得講座受講者状況

受講者 20人 の内訳は以下の通りである。

男性 5人 、女性 15人

年齢層は、30代1人、40代4人、50代11人、60代4人

受講開始時には4人の方が定職もしくはパート・アルバイトにて生活、それ以外の受講生は仕事をしておらず、今回の受講をきっかけとして就職に結びつけばと考えていた。

また、興味深いことに、今回の受講者に限ったことかとは思われるが、園芸の講座受講者の半数以上が比較的若い年代のころ（20代・30代）から園芸には興味を抱き、フラワー技術習得講座受講者の半数以上が比較的高い年代（40代・50代）になってからにフラワー分野に興味を抱き、造園に至っては興味を抱いた半数以上が30代・40代といった年齢構成となっていたことに、園芸に対する興味対象が年齢にとらわれないものであることが強く認識できるものとなった。

#### ④受講者の意識調査等

アンケートの結果は修了者を対象とするデータである。

受講者満足度については下記の通りであり、全修了者の95%が「大変満足」「満足」との回答を示し、講座の内容に当たっては大変満足のいく結果が得られた。

##### 園芸基礎講座

大変満足：14人（48.3%） 満足：14人（48.3%） 普通：1人（3.4%）

不満：0人（0%） 大変不満：0人（0%）

##### フラワーデザイン技術習得講座

大変満足：12人（63.2%） 満足：5人（26.3%） 普通：2人（10.5%）

不満：0人（0%） 大変不満：0人（0%）

##### 造園技術・管理機運転技術習得講座

大変満足：5人（35.7%） 満足：9人（64.3%） 普通：0人（0%）

不満：0人（0%） 大変不満：0人（0%）

また、将来の興味対象の誘発についても全修了者の88%が今後も興味を持って接し、将来の職業を意識した回答であった。

### ⑤受講後の状況（修了者数・就職率）

#### 園芸基礎講座

受講者33人中、29人が規定の出席時間数に達したため修了証を交付した。

#### フラワーデザイン技術習得講座

受講者24人中、19人が規定の出席時間数に達したため修了証を交付した。

#### 造園技術・管理機運転技術習得講座

受講者20人中、14人が規定の出席時間数に達したため修了証を交付した。

講座開催が年度いっぱいまで実施していたことから、これからの課題となるが、修了者のうち約90%の受講生が就職意欲を持っていることを尊重し、関係各所への働きかけを強化する。

### 3. 事業の評価に関する項目

#### ①当初目的の達成状況

3講座共通して、全修了者のうち満足度が95%に上り、当初の目標を大幅に超えて達成することができた。また、就職希望または興味率は園芸基礎講座89.6%、フラワーデザイン講座89.5%、造園技術講座85.7%であり、それぞれの講座での就職希望意識が高くなった。以上の結果、当初の目標を大幅に達成することができた。

#### ②事業の成果及び改善点

基礎講座、および専門性の高い2講座で開講した。その結果、就職意識の醸成については専門性の高い2講座で高い達成度を得ることができ、当初の目的を達成できた。しかし、基礎講座そのものは職業教育の上で必要不可欠なものであり、技術の取得に調節的には結びつかない。専門性の高い講座と連動し、同一受講者による開講が望ましいと考えられる

#### ③次年度以降における課題・展開

本校が担当できる可能性から今後を考えると、園芸基礎講座と連動した園芸装飾、フラワーデザイン、景観形成講座の開設が望ましい。

#### ④成果の普及

講座を所定時間内に遂行するために、実施期間を最大限に活用した。今後、本事業の連続受託が可能であるならば、成果を受講生の募集に充てるため、地域のハローワークなどへの公表に充てたい。